

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

平成29年度は、公益社団法人となって初めての内閣府による立入検査が実施されました。解釈の相違が一部にあったものの、公益性と活動内容には理解が得られました。その背景には、連珠社のホームページに多くの諸データを公開していることが挙げられます。ホームページは多くの連珠愛好家と日本連珠社を結ぶ架け橋ともなっているため、毎年充実をさせていきたいと考えています。また、インターネットTVを通じてアピールができたのも大きな変化でした。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。平成29年8月に、台湾台北市で開催された「第15回世界選手権」には、日本選手として3名がATに出場し、中村茂名人(当時)が4位、神谷俊介六段(当時)が6位、中山智晴七段(当時)が7位に入賞し、20年ぶりに次回本戦出場3枠を獲得しました。また、小山純六段がオープン戦で3位に入賞しました。中村名人と岡部寛九段は、現地の少年少女への指導対局イベントに参加し、TVにも出演し、国際交流を果たしました。

日本連珠社の【公益事業】である第55期全日本連珠名人戦は、挑戦者である中山智晴七段が、2勝2分で中村茂名人を破りました。歴史ある名人戦の半分である27期の名人位を保持していた中村名人が遂に敗れたのは、連珠界にとってエポックであった出来事でした。今後は、中山新名人を目標として、若手の争いが活発になるでしょう。

普及活動に力を注いでいた小林高一理事に続き、宮川淳三理事が急逝されたのは痛恨の極みですが、宮川理事が力を注いでいた青少年の育成を、より一層積極的に進めたいと考えております。また、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても引き続き全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

(1) 定時会員総会

- ・平成29年5月28日(日)13:30~14:30 於：江東区文化センター4階第1会議室
- ・出席会員数83名(うち委任状64名、会員総数112名、出席率74%)
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、飯尾義弘氏の3名を指名後、議事録作成者に河村典彦氏、岡部寛氏を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・飯尾氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・平成29年度の役員体制について、提案通りに賛成多数で可決された。
- ・河村理事長より各委員会の体制並びに委員長・委員の報告があった。
- ・会員数を増やす方策について提案があり、参加者全員で検討を行った。
- ・議事録を全正会員(特別会員・家族正会員を含む、以下同じ)に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2017年8月号に掲載し、平成28年度事業報告・収支決算、平成29年度事業計画・収支予算案、役員を選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

(2) 臨時会員総会

- ・平成29年12月23日(土)12:30~12:45 於：練馬区立向山庭園
- ・出席会員数86名(うち委任状70名、会員総数110名、出席率78%)
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、丸田光治氏の3名指名後、議事録作成者に河村典彦氏を指名した。定款第21条に従い、議事録署名人には議長本人の他、岡部氏、丸田氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。

- ・定款第2条中「主たる事務所を埼玉県所沢市に置く」とあるのを「主たる事務所を大阪府門真市に置く」と変更することが満場一致で可決確定した。主たる事務所への変更時期は平成30年1月1日とすることも承認された。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略）平成29年4月30日(日)～同5月7日(日)
 - ・出席役員 理事11名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・第3号議案で平成29年度の役員（理事・監事）候補が選出された。
 - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「平成28年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 平成29年5月28日(日)10:00～16:00（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時00分～14時30分迄中断 於：江東区文化センター4階第1会議室）
 - ・出席役員 理事11名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・飯尾理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：出席理事11名、監事2名
 - ・第6号議案で、理事職務分掌の見直し、及び各委員会委員長の選任を行った。
 - ・第7号議案で、河村典彦理事を代表理事に選任することを決定した。
 - ・第7号議案で、連珠社ホームページ充実のための方策および連珠の普及のためのアイデアが検討された。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2017年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 平成29年10月29日(日)13:00～15:00 於：東京都練馬区石神井公園ふるさと文化館
 - ・出席役員 理事11名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・飯尾理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：出席理事11名、監事2名
 - ・第2号議案で、30年度以降の委員会活動費を見直して変更することが議決された。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2017年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略）平成30年2月3日(土)～同2月18日(日)
 - ・出席役員 理事13名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の平成30年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
 - ・可能な範囲で平成28年度までの財務書類や議事録、各種資料の整理を行い、内閣府の立入調査に対応した。
 - ・河村理事長指示の下、盤野紙や書籍など普及資料の発送手配等、総務活動を行なった。
 - ・事務局作業の一環として、電話での問い合わせには可能な範囲で回答し、円滑な事務運営に努めた。

(2) 普及推進委員会

- ・東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2018年3月で197回を数える。
- ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
- ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施した。また、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し、指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出店し、普及推進につなげた。
- ・他競技と共同で普及活動を行い新しい愛好家を増やした。
- ・東北地区をはじめ他地域との棋戦の調整を行い、関東地区の公式戦を実施した。

(3) 財務委員会

- ・河村理事長指示の下、財務委員間で協議し、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。一方、より緻密な財務管理のため、平成30年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。
- ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- ・ただし、委員会としてまとまったの活動、本来委員会として行なうべき、財務健全化への提言等が行なえていないのが課題である。

(4) 広報委員会

- ・名人戦五番勝負開催にあたり、各新聞社や他競技役員と連絡を取り、上毛新聞および将棋ライター松本博文氏の取材、yahoo ニュース掲載を実現した。
- ・サイバーエージェント社「FRESH!」チャンネルにおいて、名人戦五番勝負、帝王戦三番勝負などの中継を行なった。
- ・Facebook、Twitterでの情報提供を行なった。
- ・桑名七盤勝負をはじめ、他競技愛好家との交流を通じて広報活動を行なった。
- ・ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出展した。
- ・「実戦で勝てる1手の詰め連珠」を発刊した。

(5) 国際委員会

- ・RIF会長のヘニングソン氏と連携し、連珠の諸問題について議論し、解決を図った。
- ・開局規定の変更に伴い、世界での四珠交替打ちのトレンドを分析して連珠世界誌に原稿を投稿した。

(6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、742号から753号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
- ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事をほぼ毎月掲載した。

(7) メディア委員会

<連珠社HPの改善>

- ・カレンダー機能の提供を行った。(情報提供してもらえる方がまだ少ないのが欠点)
- ・各種情報提供、特に名人戦関連連棋戦の速報を実施した。
- ・初心者向け詰連珠問題を毎週提供した。
- ・連珠関連データベースを充実させた。

<メール環境の改善>

- ・メーリングリストの設定と維持
- ・組織や機能に対応したメールアドレスの設定と維持を行ない、組織として活動しやすい環境の整備を計った。

(8) 珠規審議委員会

- ・公式戦導入2年目の開局規定である四珠交替打ちの、実施状況を確認した。
- ・世界選手権開催中、日々のメールやSNSでの連絡などで、各国の棋士と意見交換を行なった。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請を公益社団法人日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく審査、認定した。
例外事案発生に際しては、委員会の諮問決議を理事会決議として提議した。
- ・平成29年度昇入段者数は下表の通り。公式棋戦優勝者の昇入段申請の減少傾向が続いている。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
平成29年度	0	1	1	1	1	3	1	0	3	11 (0)
平成28年度	0	1	2	4	2	2	5	2	3	21 (0)
平成27年度	1	0	1	0	4	4	1	3	5	19 (0)
平成26年度	0	1	1	2	1	2	4	2	3	16 (0)
平成25年度	0	0	0	3	4	2	1	1	4	15 (0)

(10) 名人戦運営委員会

- ・第55期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成29年9月に焼津市の〈西焼津セントラルホテル〉で実施した。
- ・同名位挑戦手合い5番勝負を、委嘱した名人戦運営委員の協力で実施した。インターネット上でツイッターによるライブ中継も好評であった。
- ・挑戦者の中山智晴七段が2勝2分で、中村茂名人を破り、初の名人位に就いた。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式戦で委員会に報告のあった結果を取りまとめ、RIF（連珠国際連盟）に報告して、国際レーティングに反映させた。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・102回・103回通信戦を実施し、100回・101回の講評を連珠世界に掲載した。
- ・2016年に発表された全ての詰連珠関連の創作物を対象に、第11回詰連珠大賞の選定を行い、表彰及び呈賞を行った。
- ・第42回四追い作品コンクール、第38回限珠案コンクールを開催した。
- ・月例詰連珠、天狗道場、特別昇入段テストを実施した。

(13) 特別表彰制度

- ・平成29年度は該当者2名、早川嘉美氏（京都市）、宮川淳三氏（神戸市、故人）、を特別表彰した。